

2012年度 代表事業②

事業名

地域コミュニティ事業

「アクションプランin足久保」(仮称)

委員会

地域コミュニティ推進委員会

副委員長：松永 亜弓

副委員長：渡邊 真行

委員長：福島 清志

幹事：清陀 大真



事業趣旨要約

現在の人々が暮らす地域環境は、地域コミュニティへの帰属意識が薄れており、地域の子ども達は地域で育てるといった気運が失われつつあります。また生活環境においても、地域コミュニティが崩壊しつつあり、それによって様々な社会問題に繋がっています。このような背景の中だからこそ、子育てや仕事に従事する現役世代の地域活動への参画意識がより一層求められます。そして、6月度第一例会において、青年会議所として地域コミュニティ再生への意識共有を図り、今後は住民と共に活動の実践拡大に向けた行動が求められます。

本事業では、地域住民と協働してコミュニティ活動を参画することで、実際の活動から成る地域教育を体感し、さらなる意識の浸透を図ります。また、住民と運動の目的意識の共有を図る中で、事業への関わり方や体制・役割を明確にし、今後に繋げる活動のモデル基盤を構築します。

我々が地域住民と共に活動を行うことで、住民の意識においても自主性・主体性を持ったコミュニティリーダーが育成され、地域コミュニティ活性化への相乗効果が見込まれます。同時に、実践から学ぶ地域コミュニティ再生の必要性を改めて認識し、その運動へ第一歩を踏み出すことこそ、明るい豊かな未来へと続く「誇り高き静岡」の創造に繋がることがと確信致します。

背景

- ・地域コミュニティへの帰属意識の低下から教育効果が薄れ地域で子ども達を育てるといった気運が失われつつある。
- ・住民相互の交流機会が減少しており、子育てや仕事に従事する現役世代の地域活動への参画意識が求められている。
- ・6月度第一例会において、青年会議所として地域コミュニティ再生への意識の共有が図れ、今後は住民と共に活動の実践と拡大に向けた行動が求められている。

効果

- ・地域コミュニティ活動に参画するための基盤が整い、このまちの地域教育への一助へ繋がり、次世代の地域コミュニティが創造される。
- ・地域住民と共に活動を行うことで、住民の中においても自主性・主体性を持ったコミュニティリーダーが育成され、地域コミュニティ活性化への相乗効果が見込まれる。

例会の流れ・目的

本事業（9月23日から11月23日）
関連 ・6月度第一例会（6月26日） ・事業：地域コミュニティ推進シンポジウム（11月28日）

- 【一日目】9月23日 地域教育と住民交流
- ・1限目『竹細工体験』 自然を体験する。（竹細工にてそうめんの器、お箸、コップ、流しそうめん台、竹トンボや水鉄砲を製作する。）
 - ・2限目『共に生きる人々と交流する』 共同作業・・・流しそうめん・BBQにて昼食をとる。
 - ・3限目『住民間で親睦を図り交流を創る』 交流レクリエーション・・・完成した竹細工を展示、性能なども評価しあう。

- 【二日目】10月28日 地域の自慢づくり
- ・1限目『未来の夢づくり』 自分の夢・地域の未来図の灯籠作成・・・後程、灯籠を使用する。
 - ・2限目『お月見まわり』 各家を訪問して子どもと大人の交流、互いの顔を知る。
 - ・3限目『輝くの未来の団地づくり』 灯籠に明かりを灯し、秋の夜長の風物詩創り。

- 【三日目】11月23日『地域コミュニティ再生の気運を広める』
- ①基調講演
 - ②モデル事業の成果発表（足久保地区）・・・前回足久保で行った地域コミュニケーション活動を発表する。
 - ③地域コミュニティ活動紹介（おやじの会「ますらお会」千代田東小、「父親楽校」西奈南小、「てんぐの会」清沢地区）
- ※「清沢てんぐの会」で行われた『父親楽校・さかなを知らう・寿司職人の技を見よう』の会を紹介。

達成検証

- 事業目的に達した点：
- ・青年会議所の目指す地域コミュニティ再生への、意識と運動の方向性を知り情報発信と普及の必要性を理解して頂くことができた。
 - ・地域コミュニティが住民の命を守ることに、重要な役割を担っていることを認識すること。
 - ・次世代に必要とされる地域コミュニティの定義と役割を理解し、その活動がもたらす地域教育の可能性の見出し。
 - ・会員自身も地域住民の一員であることの自覚。
 - ・現役世代として地域コミュニティへの参画意識。
 - ・『父親による地域活動』の必要性を伝える。
 - ・実際に活動することで、地域コミュニティの持つ効果や重要性を理解することができた。

所見

年間を通じて「地域コミュニティ」について学んできた中で、JCとしてどのようなことがこのまちにできるのか考えて活動しました。その中で、各行政機関や、コミュニティ関係者と密に連絡を取り合いながら情報を集めていくことで我々が目指すべきものが明確になりました。まず「地域コミュニティ」の定義を共有するため、学習の時間と位置づけて6月度例会の運営を行いました。市民との協働事業においてはパートナーの選定に苦慮しましたが、無事に本事業を進めることができました。事業を8月、9月、10月と3回に分けて行い、お互いが地域のために何ができるかを考え、やがて同じ「地域の子どもは地域で育てる」といった目標に沿って事業を行うことで住民からの好評を得られました。事業の実施によって、構想の中だけでなく自らが体感した「地域教育」の重要性や効果、またそれに伴う複合的な変化を知ることができ、大変得難い充実した1年を過ごすことができました。

目的

- ・地元の住民間で交流を図り、子育てや仕事に従事する現役世代の地域活動の積極的な参画を促す。
- ・地域コミュニティの定義、重要性、将来性、役割への認識と気運の醸成と広がりを促す。
- ・地域住民とコミュニティ活動に参画することで、実際の活動から成る地域教育を体感し、さらなる意識の浸透を図る。
- ・静岡青年会議所として、この活動を今後市内に広く展開していくためにも、住民と目的意識の共有を図るとともに、事業への関わり方や体制・役割を明確にし、今後に繋げる活動のモデル基盤を構築する。

事業概要

日時場所：2012年9月23日から11月23日まで、葵区足久保五月台団地エリア、清水マリナート（別途 6月26日6月度第一例会～地域と共に生きる～ 及び 11月28日事業地域コミュニティ推進シンポジウム～次世代に繋ぐ地域の絆と可能性～ が行われた。）
参加人数：対象地域住民（葵区足久保五月台団地）、講師 及び 静岡JCメンバー
（6月度例会255名出席、11月度事業276名出席）
事業総額：予算490,000円（6月度例会361,288円、11月度事業1,034,462円）



担当委員長Q&A

01 地域コミュニティの再編に着目することになった大きなきっかけはどこにありますか。

また、静岡市内の中から足久保地区を選んだ理由などございますか。

きっかけは「東日本大震災」の震災時と事後における、地域コミュニティの重要性とその有効性に改めて気づいたことです。

市内各地でコミュニティの再編と新設を行うためにパートナーを探していた中で、地域性として新興住宅地であること、タイミングとしてこれから何か動き出そうとしていたこと、中心者が父親であること、などの理由で足久保地区の方々と手を組ませていただきました。

02 行政に関わる点においてや、まちづくりへのかかわり方などで、JCだからこそのものがあると思います。

福島さんご自身のお考えを教えてください。

JCのメリットとして、動員力、行動力、事業運営や組織運営のノウハウ、事業実施の経験値、予算枠といったものがあると思います。初めて事業を行う団体においては、事業を運営することや、組織化する際の構図などは、その地域に今後、自発的継続性を持つために必要不可欠なことであったと思います。

03 JCがまちづくりや行政に関わる意義など福島さんご自身のお気持ちを聞かせてください。

JCのもつ経験値は、各個人のメンバーに依存しているところが多いと思います。そのため、卒業後もシニアの方々の活躍は多く聞かれています。しかし、可能であれば市民一人ひとりが少しずつまちづくりに携わる方が、大きな運動になっていくと考えますので、きっかけをつくるのが我々の意義であり、その後、住民達が自らの手で実施できるようになることが何より大切であると思います。

04 多くの団体（特に各町内会、自治体）と調整を図る中で、自分自身やLOMとして得たものを教えてください。

「共に夢を語ることの大切さ」でしょうか？

そこに暮らす地域住民との交流を図るなかで、初めはどうしてもよそ感が否めませんでした。次第に事業を進めていく中で、地域や住民がどのようにしていくのかを、共にイメージして夢を語り、ワクワクドキドキしながら事業を迎えることができ、前に進む原動力になったと思います。それから、ちょっとした「きっかけ」さえあれば、市民運動は起こることが実証できたことです。それこそが本来JCが考える「まちづくり」の本質であることを仲間と共に実感できたことです。

05 参加者募集で工夫した点や苦労した点はございますか。

初めて事業を行う団体、初めて参加する事業ということで、チラシの作成、文言には誤解を与えないようかなり気を使いました。また、チラシの作成も住民の方々の協力を得て、お金を掛けないことを意識しました。告知やチラシの配布スケジュール、タイミングも計画性をもって行いました。特に、スタッフ会議や実行委員会をしっかりとスケジュールを立て開催していただきました。

06 一般の方々とコミュニケーションで気を使った点はございますか。

主導と客観性を意識しました。立ち上げ当初は主導を取って進めていきましたが、後半はスタッフ会議で話をまとめて、実行委員会ではなるべく発言を押さえるようにしていました。

あとは、なるべく裏表なく付き合うようにして、共に居られる時間はなるべく多くの交流を図るようにし、同じ目的を持った仲間であるように意識しました。



取材全体としてのまとめ・感想

地域コミュニティ事業はJCができるまちづくりのモデルとなるような事業でした。JCの動員力やマネジメント力があるからこそ、まちづくりのきっかけを与えることができました。後に足久保地区で新しいコミュニティとして始動し、住民たち中心の事業として残っています。この事業を通して、委員会メンバーやLOMメンバーもまちづくりに参加することのすばらしさや達成感を得ることが出来たようです。

取材前後の特に気付いた点

各委員長がJCの魅力について熟知していることに気付きました。JCは動員力や組織力を持ち、リーダー経験者がたくさんいます。この確固たる強みがあるからこそ、他の団体や市民とのプロジェクトを二人三脚で成し遂げることが出来ると感じました。また、リーダーシップは主導権を握るのではなく、協調性や時には客観性を持つ事である今回の事業で教えていただきました。